

1988年、日本のサクソフォニストが熱望したワールドサクソフーンコングレスの招致が実現しました。川崎市で開催された第9回WSCです。第1回のシカゴ開催以来WSCに大きな関心を持ち、第4回ポルドーWSCからは多くの日本人サクソフォニストが参加してまいりました。私達はサクソフーン先進国であるヨーロッパそしてアメリカのみならず、世界の国々から多くのものを学びたかったのです。それから30年、その思いは今も変わりません。再び日本にWSCを招聘したいという熱意が高まっています。この間、素晴らしい進歩を遂げている世界中のサクソフォニストを招き、共に影響し合いサクソフーン音楽の発展のための機会にしたいと思っています。

ここに日本サクソフーン協会、及び倉敷市は2021年の第19回ワールドサクソフーンコングレス誘致の立候補を致します。

誘致する倉敷市はコングレス開催に歓迎と積極的援助、協力を約束しております。また、倉敷市と強い協力関係にある、くらしき作陽大学の協力も頂いております。

コングレス開催のテーマは『サクソフーンの始まりから未来』です。世界各国のサクソフーンにとって重要なレパートリーを改めて披露し、発展してきた経過を感じたいと思っています。また世界中の参加者が演奏する新作品から未来のサクソフーン音楽の可能性を探るコングレスにしたいと思っています。

時期は2021年7月を予定しています。

会場となる倉敷市は岡山県を代表する街で、市民が歴史や文化を大切に守りぬいてきた魅力あふれる中心地です。音楽芸術にも深い理解を持って来たことは言うまでもありません。首都東京からおおよそ700km西に位置する商工業の地、繊維産業やコンビナート、自動車産業で大いに栄えている街です。150年前から受け継がれてきた情緒豊かな街並みを持つ美観地区。エルグレコ、ピカソ、マチス、ゴーギャン、モネなど世界的絵画を有する大原美術館。古い紡績工場の面影を残す文化施設、倉敷アイビスクエア。【国産ジーンズ発祥の地】倉敷児島ジーンズが有名です。ホテルの収容能力はおおよそ6,000人。古都京都、奈良、大阪、広島、国宝姫路城は新幹線で1時間圏内です。東京から新幹線で3時間、大阪から1時間。海外からのアクセスは関西空港、東京羽田空港、成田空港。近域には岡山、広島、伊丹空港があります。

コンサートのメイン会場は倉敷市民会館、倉敷市芸文館となります。隣接する倉敷市玉島に、くらしき作陽大学があり大学ホールも使用する計画です。キャパシティーはそれぞれ2000人・900人・800人。

他にも美術館、アイビースクエアをはじめ、町中でのコンサートが計画されるでしょう。

開催が決定されましたら、くらしき作陽大学教授の長瀬敏和がホスト勤めさせていただきます。

具体的な企画としては、参加者による新作品の演奏を中心に、クラシック名曲のリサイタル、吹奏楽とのコンチェルト、エレクトリックオルガンを活用した斬新なコンチェルト、研究発表等を考えています。また各国で盛んな Sax ラージアンサンブル、Sax オーケストラ、等のリサイタルもプログラムに加えたいと思っています。

さて、日本のサクソフォン事情についてお話しします。

先ずコンGRESを主催の日本サクソフォン協会はプロフェッショナル会員約 120 名、アマチュアや音大生の会員約 1000 名。音楽大学は国内に 20 以上およそ 2000 人のサクソフォン専攻の学生がおります。また吹奏楽でサクソフォンを演奏している国内の愛好者は、おそらく 10 万人を超えるでしょう。サクソフォンとその音楽を愛する人がとても多い魅力的な国です。

2020 年次期オリンピックが東京で開催されますことはご存知のことと思います。今日本は、世界中の人々が集うオリンピックの話題で盛り上がっています。参加する人たちを優しくお迎えする“OMOTENASI”の精神で海外のアスリート達を迎えようとしています。”Omotenashi”とはお迎えするお客様をいかに大切にするかを示す、日本の文化に深く根ざしているホスピタリティの精神です。

ザグレブコンGRESに参加された皆様には、次回日本での開催に大いに興味を持って欲しいと思っています。

日本のサクソフォニスト達はオリンピック同様、世界中のサクソフォニストを大歓迎するでしょう。そして“OMOTENASI”いたします。

そして共にサクソフォン音楽を満喫したいと思います。合わせて日本の文化、自然を楽しんでいただく事を希望しています。